

社会福祉法人 大阪愛心会

2018 年度 事業報告

■社会福祉法人 大阪愛心会（法人本部）

- (1) 特別養護老人ホーム事業（入所定員 50 名）
- (2) 短期入所生活介護事業（入所定員 10 名）
- (3) 通所介護事業（利用定員 35 名）
- (4) 地域包括支援センター

第1回 理事会

2018年5月23日（水）

- 第1号議案 監事監査報告
- 第2号議案 平成29年度事業報告について
- 第3号議案 平成29年度決算について
- その他

第2回 理事会

2019年3月14日（木）

- 第1号議案 平成30年度対予算進捗状況
- 第2号議案 平成31年度予算について
- 第3号議案 平成31年度事業計画について
- その他

第1回 評議員会

2018年6月6日（水）

- 第1号議案 監事監査報告
- 第2号議案 平成29年度各事業報告
- 第3号議案 平成29年度決算について
- その他

第2回 評議員会

2019年3月28日（木）

- 第1号議案 平成30年度予算進捗状況
- 第2号議案 平成31年度予算について
- 第3号議案 平成31年度事業計画について
- その他

2018年度 事業報告

【法人本部】

2018年度は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現」、「多様な人材の確保と生産性の向上」、「介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保」を図ることを目的に3年に一度の介護報酬の改訂があった。改定率は+0.54%だったが、当施設は特養と短期入所はプラスとなったが、通所介護は提供区分時間が2時間単位から1時間単位へ細分化されたためマイナスとなった。

小規模施設であることや人材確保の問題など、厳しい経営環境の中、木口副施設長が施設長に就任し、新たな体制でスタートした。2017年度は、通所介護と短期入所の稼働率が悪いことに加え、人材の安定確保のために処遇改善を実施したことにより当期利益も1,300万円ほどであった。理事長が作成されたビジョンの確認や当施設の財務分析を実施することから始めた。

「久宝寺愛の郷」のビジョン

1. 愛され信頼される施設づくり

利用者様の尊厳を守り、安全に配慮しながら、安心した生活の場を提供すると共に、信頼される施設作りを目指します。

2. 人材育成と介護技術の向上

利用者様の暮らしを支える職員として介護技術に習熟し、熱い心で接します。

3. チームワーク

自由に話し合える人間関係を作り、チームワークのとれた職場づくりを実施します。

4. 地域に根ざす

地域の方々との交流を積極的に行い、親しまれる施設作りを目指します。

職業倫理指針

1. 施設利用者の生命・権利・人権を尊重し介護を提供します。

2. 介護提供者として自らの責任と義務を自覚し、品位を保ち、人格を高めるように努めます。

3. 最善・最良の介護が提供できるように自己研鑽に励み、介護サービスの向上に努めます。

4. 各職種の専門性を尊重し、多職種協働で利用者の満足のいく介護サービスの提供を実施します。

5. 施設の公益性を理解し、地域社会に貢献できるよう努力します。

2018年度の目標

組織目標

1. 第三者評価に耐えうる組織管理。

2. 安全、安心が確保できる施設づくり

3. 教育研修の充実と力量向上

4. 労務管理の見直し（働き甲斐のある職場作り）

5. 必要な資金の確保

結果（決算書参照）

収益は、前年と比較して特養が 5.6%、短期入所が 23.6%、通所介護が 10.5%のプラスとなった。当期利益も 2,913 万円で計画に対し+143.6%、対前年度比+223.6%あった。長年の課題であった、未収金の処理を実施した結果、最終的に 1,587 万円となった。未収金については平成 27 年度に集中しており、収入の計上ミスがほとんどであった。

地域包括支援センターも存在が地域に認知されるにつれ、高齢者の相談件数が増加している。中には困難事例もあり、人手不足になっている。介護予防教室の開催や地域行事への積極的な参加もできた。

職員教育

今年度は、職員全員に個人ファイルを配布。個々に参加の見える化をしたこと、研修会の開催方法を工夫した結果、徳洲会介護施設グループの必須研修項目の出席率は格段に向上した。施設外研修も積極的に取り入れ、社会福祉主事や音楽健康指導士などの資格取得の補助も実施した。

第三者評価に耐えうる組織

コンプライアンスに則った施設運営に心がけてきた。施設を運営していく上での要求事項の確認を行い、担当者を決め、確認と問題点の明確化を実施。現在も継続中である。

社会貢献活動

1. 福祉自動販売機の設置

日本財団への寄付。

2. 八尾市癌健診と健康祭り

久宝寺コミュニティーセンターと共同で、地域の癌健診を当施設で実施。1 ヶ月後、その結果報告も兼ねた健康祭りに参加。

3. ふれ愛祭りへの障害施設の参加

みのりコミュニオンに参加していただき、グッズの販売などをおこなってもらった。

4. その他

- ・岡山県倉敷市真備町の豪雨災害に対するお見舞い。
- ・CSW の活動をバックアップ。
- ・受診者の送迎や生活困窮者への物の提供や地域の行事への協賛は引き続き実施した。

課題

1. 安定した介護人材の確保と教育
2. 生産性の向上
3. 増収対策
4. 利用者満足度の向上

【特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷】

1、入所定員 50名

2、職員体制

	常勤	非常勤	合計
施設長	1	0	1
医師（嘱託医）	0	2	2
看護責任者	1	0	1
生活相談員	1	0	1
介護支援専門員	1	0	1
看護師	3	2	5
フロアリーダー	2（UL兼務）	0	2
ユニットリーダー	3	0	3
介護職員	20	12	35
管理栄養士	1	0	1
事務職員	2	0	2

3、入居者の状況

(1) 入退居状況

2018年度中の入退居状況は次の通り。

〔月毎の入居数、退居数〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居数	1	1	2	3	2	3	5	1	1	0	0	0	19
退居数	1	1	2	3	2	4	4	1	1	0	0	0	19
末日の人数	50	50	50	50	49	48	49	48	50	50	50	50	

〔入居前の状況〕

合計数	病院	老健	サ高住	在宅	その他施設
19	6	1	1	8	3

〔退居後の状況〕

合計数	長期入院	他施設への 転居	死亡 (看取り)	死亡 (入院中)	死亡 (施設)	在宅
19	0	0	15	3	1	0

(2) 構成

2018年度での入居者構成は次の通り。

	男性	女性	
最高年齢	104	98	
平均年齢	84	88	87
平均要介護度	4.4	4.3	4.3

(3) 稼働率 (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
99.9	99.9	99.9	99.9	100	99.9	99.9	99.9	99.9	100	100	100

【介護支援専門員】

ケアプラン計画は、半年ごとに本人様とご家族様、各専門職が集まりサービス担当者会議を開催し作成している。会議では現在のご様子について確認し、必要な介護サービスについて「多職種協働」のもと、医療との連携も行ない多方面から、安心してその人らしく暮らせるためサービス計画書の作成を行った。

看取り介護計画書の作成件数も多くあり、各機会を利用して多職種連携を行なえるように色々と試行錯誤しながら工夫した一年間でした。

また各委員会やユニット会議が毎月開催されているので、介護サービスの変更をこまめにサービス計画書に反映することができればと考えています。

【生活相談員】

入居率はほぼ100%と、今年度も空室状況に素早く対応出来る様、他の連携機関や施設内での連携・情報共有を図り、空床期間2日以内とスムーズな受け入れが行えたが、急な容体変化による空床や、ご家族様の意向により入居予定が変更となった場合の課題が残った。一方看取りの方が増え精神的負担が増強する中では、より連携を強化することで職員同士フォローし合えた結果、受け入れ準備を整えることができた。中重度者の受け入れについても継続して取り組むことで日常生活継続支援加算を継続して取得、福祉用具（リフト浴）を1台導入することで職員の介護負担の軽減が可能となり、入居者の方々への安心・安全にも繋がった。

また、1ヶ月に1回以上行事を開催、ユニットリーダー・行事担当者を中心に取り組むことができ、ふれあい祭では総勢800名と参加も多く、地域の方々との交流を図る機会もできた。親しまれる施設づくりとして課題は多いが、催しごと等を通して、企画・開催への取り組み意識は向上できている。今後も日々がマンネリ化とならないよう職員協働で引き続き取り組んでいきたい。

【ショートステイ（短期入所生活介護）久宝寺愛の郷】

1. 利用定員 10名

引き続きユニットケアの利点を活かし、個別対応、在宅生活の継続に特化した対応を心がけた。

2. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
生活相談員	1	0	1
ユニットリーダー	1	0	1
介護職員	2	4	6
合計	4	4	8

3、利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	45	44	42	41	40	40	44	38	38	41	39	38
利用延人数	259	292	291	278	324	305	304	278	279	290	269	284
稼働率	86	94	97	89	104	101	98	92	90	93	96	91

4、取り組み

前年と同様、日々利用者が入れ替わる中で、利用者の方々が在宅生活を継続出来るようご家族様、各事業所との情報共有、報告・連絡・相談を積極的に行った。また、利用中の様子を写真や報告書で、ご家族及び介護支援専門員に伝達することで、信頼関係の構築ができた。サービスの質（入所中の余暇活動/脳トレ/運動不足予防の散歩等）の向上を行い、今年度もリピーター率は、ほぼ100%を達成することができた。

【デイサービス（通所介護）久宝寺愛の郷】

職員が定着し、利用者様との信頼関係を築けた。新規利用者の獲得も順調にできた。稼働率も月平均82.7%（前年比+9.4%）、1日の平均利用者数26名（前年比+3）となった。今後は居宅支援事業所への営業活動、自施設ショートステイと情報共有しながら、在宅で頑張っておられる方のサポートをしていきたい。

1. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
管理者	1	0	1
生活相談員	1	0	1
看護師	1	1	2
機能訓練指導員	1	1	2
介護職員	3	5	8
送迎担当（運転手）	0	2	2
合計	6	10	16

2. 利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	688	750	714	683	705	617	674	668	701	674	654	700
延利用日数	25	27	26	26	27	27	25	27	26	26	24	26
稼働率	86.0	86.6	85.8	82.1	81.6	77.1	78.0	80.3	84.3	81.0	85.2	84.1

3. 取り組み

利用者様に満足してもらえる様なレクリエーション、ボランティアによる踊り・歌等の実施。毎月のおやつレク、お誕生日会を開催した。個別機能訓練も徐々にではあるが人数も増加してきている。次年度からサービス提供体制加算を算定開始。

次年度では、他事業所との交流会等を実施、レクリエーションのさらなる充実を図り、さらに楽しんで頂ける様な取組をしていく。

【八尾市地域包括支援センター 久宝寺愛の郷】

愛称である校区高齢者あんしんセンターとして、久宝寺・美園小学校区の地域活動に参加して、健康相談や啓発活動を実施し、センターとしての周知活動を行いました。

初年度同様に2年目の周知活動は、地域の協力のもと概ね実施できました。

1. 職員体制

	常勤	非常勤	合計
社会福祉士 (管理者兼務)	1	0	1
主任介護支援専門員	1	0	1
保健師	1	0	1
	3	0	3

2. 利用者数 (2018年度)

年 月 項目	30									31			合計	月 平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
直接プラン 介護予防支援費	8	7	6	6	6	6	5	4	4	4	4	3	63	5
直接プラン マネジメント費	3	3	4	3	3	4	4	3	5	4	4	4	44	4
原案委託 介護予防支援費	131	136	136	134	134	137	141	142	136	135	136	134	1,632	136
原案委託 マネジメント費	96	96	88	92	95	95	101	102	108	108	106	115	1,202	100
合計	238	242	234	235	238	242	251	251	253	251	250	256	2,941	245
相談受付	301	324	301	255	301	275	323	281	316	308	321	326	3,632	303
介護予防教室	1	1	2	1	1	2	2	1	2	1	1	1	16	1
家族介護教室	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	6	1
地域行事	9	7	9	8	4	6	5	9	5	5	6	6	79	7
実態把握	21	23	26	25	20	26	20	20	17	22	18	7	245	20
徘徊実態把握	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	19	2

河内音頭立ち上げ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教室新規参加者	6	1	15	23	7	8	8	7	5	4	1	10	95	8

3. 取り組み

要支援者1・2の介護保険利用者を地域の介護支援専門員と協力して支援する原案委託業務では、定期的な計画の評価をセンターで実施しています。支援内容の適正化とともに、支援困難である内容を一緒に考えて、包括的業務を実施しています。

介護予防教室では、センターを飛び出し、地域拠点での開催を実施しました。教室新規参加者が増加することで、センター啓発とともに新たな地域課題の抽出に役立っています。加えて、地域からの相談事に電話対応や訪問活動を実施し、総合相談窓口としての機能を果たしています。

【医務】

1. 健康管理

2018年4月～2019年3月

入院：19名 救急要請：9件 入院中病院にて死亡：3名

平均入院日数：15.2日

入院病名：尿路感染症・誤嚥性肺炎・大腸穿孔・胆嚢炎・胆石症・腰椎圧迫骨折・認知症等
前年度に比較して受診件数は約90件の減少がみられ、特に内科・皮膚科・外科が減少となった。入院数も8名減少し、入院期間（平均日数）も15日短縮したが、大腸穿孔や吐血・転倒後の骨折など救急搬送が、昨年と比較して7件増加がみられた。

【受診数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3	2	0	2	6	0	0	0	1	0	0	2	16
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
外科	0	1	1	3	1	0	0	0	1	0	0	1	8
整形外科	1	1	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	8
泌尿器科	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4
眼科	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	4
歯科	(7)	(6)	(7)	(6)	(6)	(6)	(6)	(5)	(5)	(5)	(5)	(5)	(70)
神経内科	0	1	3	1	0	0	1	3	2	1	1	1	13
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
脳神経外科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	5	5	6	8	11	1	3	3	7	2	2	6	57

【入院数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実人数	4	0	1	0	1	3	5	3	2	0	0	0	19	1.6
延べ日数	36	0	2	0	10	15	62	48	9	0	0	0	18	15.2

【急搬送件数】 ※全て八尾徳洲会病院へ搬送

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送	1	0	1	0	0	2	2	1	2	0	0	0	9

2. 施設退去者状況

施設内看取り介護：15名 転院（療養型病院）0名 入院中の死亡退院3名
 その他 1名（施設内みとり）

医療連携施設：八尾徳洲会総合病院・清心会メンタルクリニック・ハローデンタルクリニック・健志会歯科クリニック・甲野クリニック

前年度に比較して看取り介護にて永眠、退去がさらに増加した。急変による救急搬送後の死亡数は、昨年に比較して1件増加した。しかし、経管栄養・吸引による療養型病院への転院の選択をされる方はなかった。

施設内での在宅酸素導入や抗生剤の点滴など、最小限の医療提供が出来ることで施設内最後（看取り介護）を望まれる傾向がさらに強くなってきている。入居時に延命に関する意思確認や、看取り介護についての説明を医師より行うことにより、施設が終の棲家である認識がより深まって来ている。

3. 感染症対策

- インフルエンザ予防接種：入居者・職員 11月に施行
 - ノロ対策にてH29年10月～H30年3月 環境クロス ルビスタ導入
- 結果
- ・インフルエンザ罹患・・・2名。（職員） 入居者 0名
 - ・ノロウイルス・・・0名。

【栄養】

前年度より引き続き、栄養マネジメントにて個別の栄養管理を行った。また、今年度は経口維持加算を開始したことにより、入居者の食事能力に合ったケアを各職種が意識する機会が増えた。今年度導入したソフト食の食数も増え、安全な食事の提供から誤嚥予防に繋げることが出来た。

1. 職員体制

職種	常勤	非常勤	合計
管理栄養士	1	0	1
栄養士	1	0	1
調理師	3	4	7
合計	5	4	9

2. 行事食・季節料理

- 4月：春の献立（菜の花・ふき・木の芽・たけのこ等春野菜を使ったメニュー、さくら饅頭）
5月：端午の節句（こいのぼりゼリー、かしわまんじゅう）
6月：夏の献立（トマト・ピーマン・冬瓜・枝豆・とうもろこし等夏野菜を使ったメニュー、あじさいゼリー）
7月：七夕（七夕そうめん）、土用の丑（うなぎ）
8月：夏の献立（トマト・オクラ・冬瓜・ゴーヤ等夏野菜メニュー）
9月：開設記念日（赤飯、紅白饅頭）、敬老の日（赤飯、天ぷら盛）、十五夜（里芋、うさぎ饅頭）
10月：ハロウィン（おばけハンバーグ、カボチャババロア）
11月：秋の献立（秋刀魚、さつまいも、南瓜、茄子、きのこ類等秋食材を使ったメニュー）
12月：クリスマス（デザートバイキング、チキンライス、もみの木ハンバーグ）、冬至（南瓜）、大晦日（年越しそば）
1月：正月（おせち料理、七草粥、小豆粥）、鏡開き（ぜんざい）
2月：節分（イワシ、巻き寿司）、バレンタイン（チョコレートケーキ）
3月：ひな祭り（散らし寿司）

2018年度 事故報告・ヒヤリハット報告について

高畑 洋子

1. 事故件数

■事故（アクシデン）件数：163件 平成29年度より20件増

■ヒヤリハット（インシデント）件数：97件 平成29年度より15件増

2. 事故分析

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	件数
転倒	1	2	5	3	2	2	5	2	1	1	1	5	30
転落・ずり落ち	9	5	8	3	9	9	3	3	6	6	4	0	65
食事	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
与薬	2	0	3	2	5	2	3	3	4	6	4	3	37
入浴	1	1	0	2	1	1	0	1	0	0	0	0	7
利用者の出来事	1	1	1	3	3	3	3	3	14	12	8	2	54
その他	9	3	7	4	7	6	4	4	8	7	3	1	63
計	25	12	24	18	27	23	18	17	33	32	20	11	260

○転倒 12%、転落・ずり落ち 25%、与薬 14%

転落・ずり落ち事故が多く発生、昨年度は転倒が30%であった。所見では利用者に変化なし50%、打撲が15.4%、次いで内出血・外傷と表皮剥離が昨年同様多くみられた。

○発生状況では訪室時や他の介助時に発見する状況が多く、自立動作による発生が37.2%と多かった。認知症を患っている利用者の行動による事故発生が多く、介助中の事故は19.4%と昨年度より8%増えている。発生場所は51.9%と居室が大半、次いでリビング・ダイニングともに14.8%であった。トイレが昨年度より8.5%減少。

○時間別分析

転倒：12時・15時・16時・19時に居室での発生が多かった。

転落・ずり落ち：14時・6時・夜間と、ベッドからのずり落ちが多い。

3.行政報告

骨折事故1件　　その他4件